

科目名		職業性中毒学特論	
科目責任者		上 野 晋 (職業性中毒学 教授)	
開講時期:	1～2年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 産業化学物質の曝露によってどのような全身毒性が生じるか、代表的な化学物質とその毒性の評価、ならびに分子レベルでの毒性発現機序について理解を深める。 行動目標 (SBOs) 1) 化学物質の体内動態・代謝・毒性機序について説明できる。 2) 化学物質の毒性発現機序について説明できる。 3) 毒性評価に用いられる試験法について説明できる。 4) 遺伝毒性・生殖毒性をもたらす化学物質について概説できる。 5) 発がん性をもたらす化学物質について概説できる。 6) 発達・神経行動毒性をもたらす化学物質について概説できる。 7) 免疫毒性をもたらす化学物質について概説できる。 8) 代表的な金属中毒、炭素化合物中毒、刺激性ガス・化学性窒息ガス中毒が説明できる。 9) 化学物質曝露によって生じる代表的な臨床所見について概説できる。			
● 評価方法	検討会でのプレゼンテーション内容40%、討議への参加度30%、課題レポート等30%等で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

授 業 項 目 (内 容)
化学物質の体内動態・代謝
化学物質の毒性発現機序
毒性評価のための試験法
化学物質の全身毒性: 遺伝毒性・生殖毒性
化学物質の全身毒性: 発がん性
化学物質の全身毒性: 発達・神経行動毒性
化学物質の全身毒性: 免疫毒性・アレルギー
金属による中毒
炭素化合物による中毒
刺激性ガス・窒息ガスによる中毒
化学物質の臓器障害と臨床所見
社会における中毒事例